2025年度 一般社団法人日本臨床化学会 第2回理事会（拡大理事会）議事録

日　時：2025年11月7日（金）18：00-19：30
会　場：ウインクあいち（第2会場　5階小ホール1）
議　長：三井田孝（理事長）
出席者：三井田孝（理事長）
石井直仁、大川龍之介、城野博史、吉田　博（以上 常務理事）
伊藤弘康、大林光念、川崎健治、惠　淑萍、中川沙織、中沢隆史、橋口照人、
平山　哲、松下一之、山口哲史、山下計太（以上 理事）
齋藤邦明、三浦雅一（以上 監事）
坂本秀生（国際交流委員会）、岡田光貴（若手育成委員会）、高妻卓司（企業懇話会）
吉田　繁、上田一仁、大倉宏之、加藤公則、矢野彰三（以上 支部長）
欠席者：小谷和彦、仁井見英樹、堀田多恵子（以上 理事）
内藤嘉紀、村尾孝児、山口浩明（以上 支部長）
理事出席者数16名（全理事数19名）、全出席者数26名

議　題

1．開会の辞（三井田 理事長）
・理事総数19名中16名、全26名の出席があり理事会は成立した。
・本会名誉会員である河合忠先生への黙祷を行ったあと会議を開催した。

2．第65回年次学術集会長挨拶（齋藤 年次学術集会長）
・年次学術集会長からご挨拶があった。

3．議事録確認者の指名（三井田 理事長）
・城野理事、中沢理事が指名された。

4．報告事項
1）庶務報告（吉田 庶務担当理事）
①学会会員現状報告
・2025年10月24日時点で、正会員1,558名、正会員（30歳未満）161名、評議員169名となっており、30歳未満の若手会員が順調に増加している。
②事業報告・事業計画
・2025年6月21日に開催した理事会以降、各種委員会などを開催し、学会誌は順調に発行している。ニュースレターも継続して発行できている。

2）2025年度会計中間報告（大川 会計担当理事）
・2025年4月1日～9月30日の入力分までの中間報告がなされた。
・2025年度上半期（4月1日～9月30日）の収入・支出ともに概ね予定通りとなっている。
・支出の部の勧告法総集編関連費については、増刷のため312,738円が計上されている。

3）常置委員会報告
①編集委員会報告（松下 編集担当理事）
・学会誌は、53巻4号～54巻4号までを発刊した。
・ACBのインパクトファクターは2.1程度であった。投稿数が減少傾向にあるため、会員への投稿呼びかけの依頼があった。
・投稿論文の査読者選定用リスト作成のため評議員の先生方の専門分野についてアンケートを実施施する予定。ご協力いただきたい。
②国際交流委員会報告（坂本 国際交流委員会委員長）
・IFCC eNewsに2024年度学会賞受賞者の研究紹介を掲載した。
・Global MedLab Week2025は、岡田先生に作成していただいた動画を提出した。
・APFCB Newsの2025年第1号に第64回年会報告、第2号に学生シンポジウム受賞者の受賞演題の紹介と感想を寄稿した。

・副委員長に惠先生が推薦され、承認された。

③教育委員会報告（平山 教育担当理事・委員長）

・2025 年度認定臨床化学者は、新規 19 名、更新は 16 名全員が承認となった。

・2025 年度精度保証管理者制度の認定試験は、2025 年 12 月 21 日（日）に文教大学院大学で開催予定。今年度の更新申請対象者はなし。
申請期間：2025 年 10 月 15 日～2025 年 11 月 13 日。

・年次学術集会内のセッションで、日臨技と合同の更新用セミナーを実施している。

・試験委員会の委員長・副委員長について、教育委員会委員長の平山先生が試験委員会の委員長も兼任することが報告された。また副委員長には同じく教育委員会の小野先生が就任することとなったことが報告され、承認された。

④学術連絡委員会報告（城野 学術連絡委員会委員長）

・各専門委員会のプロジェクトが進んでいる。

・2026 年度日本臨床検査医学会の共催シンポジウムの担当は、リポ蛋白検査専門委員会に決定した。

⑤集会・広報委員会報告（吉田 集会・広報委員会委員長）

・バナー広告は、現在 4 社のみ公開している。

・X の運用について編集委員会から提案があり、学会専用アカウントを作成し運用することが理事会で承認された。運用は規定を作成のうえ開始する。

・第 67 回年次学術集会の日程について報告がされた。
日　　時：令和 9 年（2027 年）9 月 3 日(金)～9 月 5 日（日）
会　　場：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町）
集 会 長：上田 一仁（関西医療大学保健医療学部）
副集会長：渡邉 幹夫（大阪大学大学院医学系研究科）
実行委員長：狩野 春艶（兵庫医科大学病院臨床検査部）　　敬称略

・第 68 回年次学術集会の年次学術集会長は、継続審議中であることが報告された。

⑥学会賞選考委員会報告（山下 学術担当理事・委員長）

・2025 年度 JSCCStudentAward の学生シンポジストについて報告があった。23 名応募があり 10 名が学生シンポジストとしてノミネートされた。

・来年度の学会賞、YIA、JSCC StudentAward の実施要綱について変更はなし。学会賞の締め切りは 2026 年 3 月 31 日（火）必着となった。

・学会賞の協賛金について例年 2 社のみとなっているので多くの企業にご協力いただきたいと報告がされた。

・理事長より JSCC StudentAward の審査員長含む審査員について、今後は名誉会員や有功会員の方々にも入っていただくことなど委員会で検討するようご意見があった。

⑦法務委員会報告（川崎 法務担当理事・委員長）

・2024 年度に関する利益相反アンケート調査を行った。回答率は 100％であった。

・来年度も現行の設問を継続して使用することが報告された。

⑧あり方検討委員会報告（大川 あり方検討委員会委員長）

・企業会員との連携強化のため、連携シンポジウム「臨床化学検査の価値創造：医療現場と産業の共創」を年次学術集会（3 日目）に開催予定することが報告された。

⑨若手育成委員会報告（岡田 若手育成委員会副委員長）

・若手会員を対象にした全国勉強会について、今年度 8 月に実施した勉強会では約 150 名もの参加があったことが報告された。事後アンケートでは好意的な感想が得られた。

・年次学術集会 3 日目に若手同士の学術的な交流や施設間連携を促進する若手シンポジウムを開催予定。まだ余裕があるので参加対象 40 歳未満の若手会員の飛び入り参加も歓迎する。

・今後、合宿企画などについて委員会で検討していると報告がされた。

4）支部報告

・下記9つの支部から支部総会・支部例会などの報告がなされた。

①北海道支部（吉田 支部長）、②東北支部（石井 庶務担当理事）、③関東支部（石井 支部長）
④甲信越支部（加藤 支部長）、⑤東海・北陸支部（大倉 支部長）、⑥近畿支部（上田 支部長）
⑦中国支部（矢野 支部長）、⑧四国支部（石井 庶務担当理事）、⑨九州支部（石井 庶務担当理事）

5）企業懇話会報告（高妻 企業懇話会世話人）

・企業会員が39社あり、年に2回懇話会を実施している。
・年次学術集会では、下記の通り2つのシンポジウムを開催することが報告された。

2日目　第20回企業シンポジウム　未来を創る知の力：DX・AIで臨床化学の新時代へ
3日目　連携シンポジウム　臨床化学検査の価値創造：医療現場と産業の共創

6）第66回年次学術集会報告（恵 第66回年次学術集会長）

・2026年10月30日（金）～11月1日（日）に、北海道大学で開催する。テーマは「彩！臨床化学の大地」とした。

7）若手育成助成金（須藤加代子基金）について（大川 理事）

・最終的な申請者数は、個人研究は11件、多機関共同研究は2件であった。ワーキンググループで厳正な審査をし、個人研究は鬼木健太郎先生、黒崎祥史先生の2件、多機関共同研究は尾田一貴先生の1件が採択されたことが改めて報告された。

8）その他

①日本薬系学会連合について（城野 理事）

・6月14日に記念フォーラムがハイブリットにて開催された。
・9月29日に定期総会が開催された。
・ダイバーシティ推進WGに中川先生を推薦し、活動にも参加してもらっている。

②勧告法総集編2026年版について（事務局）

・学術連絡委員会で発行までのスケジュール案を提示していることが報告された。発行については、2026年度の年次学術集会か、2026年度末のいずれかをゴールとする予定。

③支部・専門委員会の補助金振込口座の対応について（三井田 理事長）

・支部・専門委員会活動などで団体名義の口座開設が困難な問題に対しては、税理士と相談し使用目的を明記した契約書を交わすことを条件に、個人名義口座への振込を例外的に認めることとした。運用を開始していることも報告された。
・原則としては、これまで通り団体名義の口座開設であるが、困難な場合にのみ適応する運用であることもあわせて報告された。

④IFCC関連報告（三井田 理事長）

・国際学会での対面交流の重要性を再認識し、IFCCなどとの関係強化が不可欠であると報告がされた。
・中国企業の台頭をふまえ、リスク管理をしつつ関係を構築していく必要性についても視野に入れる必要があると報告がされた。
・IFCC役員を日本の学会に招聘する案も提案された。

5．審議事項

1）評議員追加について（三井田 理事長）

・IFCC・甲状腺機能検査標準化委員会のcorresponding memberである小飼貴彦先生が評議員でないことが判明したため理事長から推薦があり拡大理事会にて承認された。

2）2026年度選挙管理委員会について（三井田 理事長）

・選挙管理委員の任期は2年で、2026年3月末で終了となる。次期委員候補として理事長より下記4名の推薦があり拡大理事会で承認された。

吉田　　博　先生（1）医師　※委員長
中川　沙織　先生（2）研究・教育職

城野　博史　先生（3）医療職
中沢　隆史　様　（4）産業系

3）ダイバーシティ委員会について（三井田 理事長）

・女性理事の増加や男女共同参画の取り組みが求められている背景から、三井田理事長からダイバーシティ委員会の設置が提案された。委員長候補として中川沙織先生が推薦され、承認された。委員会の設置に伴い会則に追加する必要があるため、メール理事会などで迅速に進める方針が示された。

6．閉会の辞（三井田 理事長）

・理事長より挨拶があり、理事会は閉会した。

以　上

2025 年 11 月 7 日

一般社団法人日本臨床化学会拡大理事会

議長　三井田 孝

議事録確認者　城野 博史

議事録確認者　中沢 隆史